



Title	都心部における駐車対策に関する基礎的研究
Author(s)	鄭, 憲永
Citation	大阪大学, 1989, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/36436">https://hdl.handle.net/11094/36436</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、<a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">大阪大学の博士論文について</a>をご参照ください。

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名・(本籍)	ちよん 鄭	ほん 憲	ようん 永
学位の種類	工	学	博 士
学位記番号	第	8 6 6 3	号
学位授与の日付	平成元年3月24日		
学位授与の要件	工学研究科土木工学専攻 学位規則第5条第1項該当		
学位論文題目	都心部における駐車対策に関する基礎的研究		
論文審査委員	(主査) 教授 室田 明 教授 福本 晴士 教授 榎木 亨 教授 村岡 浩爾 教授 松井 保		

## 論文内容の要旨

本論文は、大都市都心部の駐車問題を対象に、主として中短期的な駐車対策を策定するに当たって必要とする基本的な事項について検討したもので、7章からなっている。

第1章では、駐車問題に関する本研究の目的と意義を述べている。

第2章では、都心部における駐車問題を広く把握・分析することによって、都心部の駐車実態を概観して、有効な駐車対策の策定に当たってはドライバーの意識分析がまず重要な位置を占めるとの認識から、都心部において駐車に対する意識調査を行い、その調査結果に基づいて今後検討されるべき駐車対策について考察を加え、3章以降の各章の方向を示している。

第3章では、必要となる路外駐車スペースの整備方向について検討するために、個々のビルにおける駐車場の整備実態と駐車発生量を把握し、ビルにおける必要な駐車施設の規模を算出するとともに現在の附置義務基準の見直しについて論じ、今後必要となる路外駐車施設の整備方向を示している。

第4章では、幹線道路において路上駐車が増加が旅行時間に及ぼす影響について定量的に把握するとともに、道路がもつアクセス機能およびスペース機能を考慮して、都心空間の有効利用の立場から街路空間の利用のあり方について述べている。

第5章では、都心部における既存駐車場の有効利用を図るためドライバーの駐車場の選択現象を分析している。駐車場選択に影響を及ぼす諸要因の中で、駐車料金と駐車場から目的施設までの距離に焦点を当て、これらの要因がドライバーの駐車場選択にどのような影響を与えているかを分析し、駐車料金と目的施設までの距離を組み合わせた指標を提案している。

第6章では、第5章における分析を踏まえて既存の駐車場の有効利用を試みることにし、そのための数

理計画的な検討を行うとともに、都心部においてケース・スタディーを行い、最適割当案を求め、それが実現するための駐車場案内システムの考え方について検討している。

第7章は、本研究で得られた主要な成果をとりまとめるとともに、今後の課題について述べている。

## 論文の審査結果の要旨

自動車交通が都心空間に対して過大となるのに伴って各種の弊害が続出するようになったが駐車問題は自動車交通の生んだ主要な弊害の一つで現代都市が直面している解決が容易ではない都市交通問題である。

本論文は大都市都心部における中短期的な駐車対策を対象とし、駐車施設の整備といったハード面のみならず、ドライバーの意識構造の分析によって駐車場選択の動機というソフト面にも研究を進めたもので、その成果を要約すれば次の通りである。

- (1) 都市部の路上に駐車しているドライバーを対象に、駐車行動や路上駐車した理由の分析を行い、その結果、都心部の路上駐車対策を策定するに際しては駐車施設の整備、その効率的な運用、駐車取締り、啓蒙活動等を組み合わせた総合的な駐車対策が必要であると指摘している。
- (2) ビルにおける駐車場整備の実態を調査によって把握し、現行の駐車場の附置義務基準では小規模ビルは過小であり、大規模ビルは余裕があることを定量的に明らかにしている。
- (3) ドライバーの駐車場選択特性を駐車料金および駐車位置から目的地までの距離等から分析し、後者については距離価値を求め、これによって駐車場間の料金差を距離に換算した修正徒歩距離を求めている。このパラメータによって駐車場群としての駐車場配置計画、駐車台数の配分問題等の分析が可能であることを示している。
- (4) この修正徒歩距離が最小となる場合を最適状態とし、そのような駐車場割当モデルを構築し、それを実現するための駐車場案内システムの概念を呈示している。

以上のように、本論文は都市部における駐車施設の実態調査と、ドライバーの意識調査に基づき、駐車場の最適配置計画とその効率的運用について具体案を呈示したもので、交通工学、都市計画に寄与するところが多い。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。